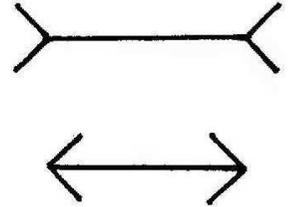


ふしぎな目の錯覚 エイズの部屋

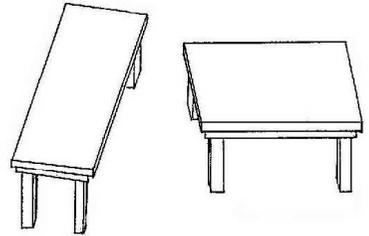
1. 子どもたちへのメッセージ

夕方、西の空に沈んでいく真っ赤な太陽が、とっても大きく見えたという経験をした人は多いと思います。昼間の太陽はそれほど大きくないのに、どうして夕陽は大きくなるのでしょうか？ じつはこれ、目の錯覚（さっかく）なのです。つまり本当は昼の太陽も夕方の太陽も同じ大きさなのです。私たちには「夕陽は大きい」ような気がするだけなのです。



図①

右の図①を見てください。これはミュラー＝リヤーという人が描いた錯視図形です。横線の長さは同じなのに、上の方が長く見えるでしょう。また図②はアメリカの心理学者シェパードが描いた錯視図ですが、この2つの机は全く同じ形なんですよ。（ものさしで辺の長さをはかってごらん！）



図②

このように人間の目は、かんたんにだまされてしまうのです。気をつけなければいけません。

では、だまされないようにするには、どうすればよいのでしょうか？ それは、だまされる仕組み（あるいはだます仕組み）を知ることです。

今回はいろいろな目の錯覚や錯視図を紹介するとともに、科学館などにもよくある、有名な「エイズの部屋」のミニチュア版を工作してみましよう。

2. よういするもの

工作用紙、はさみ、カッター、のり、セロテープ 他

3. やりかた

エイズの部屋を組み立て、丸いのぞき穴から中を見ると・・・あれ？不思議！
同じ大きさだったはずの人物の絵が、大きく見えたり小さく見えたり・・・

4. 調べてみよう

どうしてこんなことが起こるのかな？ よ〜く観察すれば、きっと答えがわかるはず。
興味を持った人は、自分でもいろいろと調べてみてくださいね。

5. 参考になる本

「試してナットク！ 錯視図典」馬場雄二・田中康博 著（講談社、2004年）

「図解雑学 脳のはたらき 知覚と錯覚」宮本敏夫 著（ナツメ社、2002年）

6. 問い合わせ先 大阪府立三島高等学校 吉新 聖二

「青少年のための科学の祭典大阪大会サイエンスフェスタ2005 ガイドブック」より